

平成30年度 那珂川町立小川小学校 学校評価報告書

評価項目	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
各学校での目標（重点は○数字）・具体策				
<b>I 学校教育目標や学校経営の方針の設定状況</b>				
1 小川中学校区幼保小中連携教育を推進する ・ハッピースローププランの推進 ・小川中学区連携事業の推進	A	○ハッピースローププランのおかげで、「こ・小・中」の連携がよくなされた。 ○学校全体で声かけをすることがよくできていた。	・今年度の反省を生かし、部会で話し合った改善策を次年度の計画に生かす。その計画に沿ってできるだけ具体的な手立てを担当が出し、会議等で共通理解を図る。	・今年度、学校経営の方針や努力点、児童の実態や働き方改革等を反映した学校経営がなされている。
② 組織を活かした指導を推進する。 ・「いじめゼロ運動」の展開 ・組織的な見守りと支援体制の構築	B	○安全面や衛生面で、昨年度の反省を生かした環境作りに努めてきた。 △下校時、休み時間等児童指導面で細かい部分の共通理解を図っていく必要がある。	・各担当や係から具体的な要望を出し、可能な限り迅速に施設・設備の充実を図る。	
3 学びを支える環境を整備する。 ・学習を支える環境づくり ・安全で安心な環境づくり	B	△学校の施設・設備面で改善が図られるとよい部分がある。		
<b>II 保護者や地域との連携に努める</b>				
① HPや学校だより等を通して、保護者や地域に向け、きめ細かに情報提供し開かれた学校づくりに努める。	A	○HPや学校だよりなど、情報発信が定期的になされ、児童の活動の様子がよく伝わっていた。 ○家庭学習については、個人懇談や学年懇談などで大切さを伝えたり各種たより等で保護者をお願いしたりして少しずつ啓発を図ることができた。	・児童期の睡眠の重要性や、ゲーム等のメディアが児童の発達に与える影響について、さらに啓発をしていく。 ・家庭の状況や児童の実態に合った適切なメディアの使用について考えていく。	・家庭での生活については、引き続き啓発を図っていく必要がある。 ・メディアの使い方については、保護者の使い方や家庭でのルールなども大切である。
② 保護者との連携を進める。 ・家庭学習の習慣化 ・基本的生活習慣の育成 ・家読のすすめ	A	○生活科、総合、保健指導等で地域人材の活用を図ることができた。 △睡眠、食事、メディアの使用等で適切な生活習慣の育成が必要と思われるケースが見られる。	・総合的な学習の時間のテーマを「小川」から「那珂川町」に広げることも考える。 ・地域人材のさらなる活用を図っていく。	
3 地域との絆を深め、教育活動の活性化を図る。 ・「町に学ぶ」学習の推進 ・地域人材の活用	A	△「町に学ぶ」のテーマを再検討してもよい。		
<b>III 確かな学力の育成に努める</b>				
① 分かる・できる・楽しむ授業づくりを努める ・基礎・基本の指導の充実 ・「学び」への関心を高める学習環境づくり	A	○那珂川スクールをはじめとしてレベルアップを図った。 ○研究授業を多く実施し、授業力アップに努めた。	・視聴覚教材の活用をすすめて児童の興味・関心を喚起できるとよい。 ・国語辞典を各クラスに配置し、主体的に学ぶ態度を育成できるとよい。	・プログラミング教育や外国語教育等が新しい学習指導要領で打ち出されている。それらへの対応を行い、充実させてほしい。
2 言語活動の充実に努める。 ・言語能力の育成 ・情報活用能力の育成 ・表現する力の育成	A	○様々な場での発表を通して表現する力を養うことができた。 ○めあてを立て、ノートを活用し振り返りを行ったことにより、見通しをもった学習ができるようになった。	・「なぜ学ぶのか」「できるようになりたい」という思いを児童の中に育てていくことが大切である。	

<p>3 主体的な学びの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に見通しをもち粘り強く取り組む態度の育成</li> <li>・自らの学習を振り返り次の学びにつなげる態度の育成</li> </ul>	A	<p>△語彙力をあげることが難しかった。 △課題に粘り強く取り組む態度が身に付かなかった。</p>		
IV 豊かな心の醸成に努める				
<p>① 自尊感情の育成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の充実</li> <li>・ハートの日のアンケートの活用</li> <li>・一人一人に応じた適切な支援</li> <li>・道徳、学級活動、児童会活動の充実</li> </ul>	A	<p>○全員への教育相談を実施し、思いを聞くことができた。 ○「よいところみつけ」などを行い、学級内の児童の人間関係がより良好になった。 ○「あいさつ、返事、ありがとう」が定着してきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーとの面談を充実させる。</li> <li>・あいさつ、返事については、あいさつの声の設定や強調週間を設ける等全校で取り組めるような活動を行ってはどうか。</li> <li>・配慮を要する児童や問題行動のある児童については、打合せの時間等でこまめに周知するとよい。</li> <li>・規範意識、ルール、マナーを身につけさせるための指導が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつは児童によって違う。あいさつをしない児童もいるので、充実を図ってほしい。</li> <li>・縦割班活動は、同学年以外の集団で活動できる貴重な機会なので、とてもよい。</li> </ul>
<p>② 居がいのある学級（学校）づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつ、返事、ありがとう」の実践</li> <li>・Q・Uを活用した学級づくり</li> </ul>	A	<p>○縦割班給食等、縦割りで動くことにより、人間関係が良好になり、リーダー性の育成にも役立った。</p>		
<p>3 温かな人間関係づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割班活動の充実</li> <li>・交流活動の推進</li> </ul> <p>4 読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書に親しむ環境づくり</li> <li>・家読のすすめ</li> </ul>	A	<p>○朝礼の講話や図書委員会の行事等で読書活動の推進を図ることができた。 △ハートの日のアンケートの実施方法について再検討する必要がある。 △あいさつ、返事については、さらに指導が必要である。</p>		
V 健やかな体の育成に努める				
<p>① 命を大切にする子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検と安全指導の充実</li> <li>・自己指導能力の育成</li> <li>・学校安全の充実</li> </ul>	B	<p>○安全点検を実施し、その後、できるだけ素早く処理をした。 ○体重管理や心理的状态の担任への情報提供等、学級担任と情報を共有することにより指導が充実した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己指導能力の育成について、実際の指導例を示すなどの共通理解の場を設ける。</li> <li>・廊下の歩行ラインの設置やポスター等で静かな廊下歩行の啓発を行う。</li> <li>・業間の時間を利用しての取組（例えば持久走）等は時期や曜日を決めて行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアとのつきあい方は家庭でルールを決めて行うとよい。</li> <li>・ゲームを長時間行うことの弊害について、さらに啓発を図っていくとよい。</li> </ul>
<p>2 健康教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「早寝・早起き・朝ごはん、テレビを止めて外遊び」の推進</li> <li>・保健学習の充実（養護教諭とのT・T）</li> </ul>	A	<p>○業間の時間に元気に外遊びをすることができた。長距離走の記録をとる等自らの伸びを実感できるような取組もよかった。</p>		
<p>3 体力づくりの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてをもって取り組む体育の実践</li> <li>・「風の子タイム」での走運動</li> </ul>	A	<p>△自己指導能力についての理解が不十分だった。 △廊下を走らないという指導がなかなか定着しなかった。</p>		